

## 意見陳述

控訴人 須田 幸子

## 私たちに

## 原発は必要ない

空知管内栗山町の須田幸子と申します。年金生活者です。2011年3月11日に起きた東日本大震災を原因とするフクシマ第一原発事故は、私の価値観を一変させる出来事でした。戦争中でもないのに10万人以上が、着の身着のまま避難を余儀なくされました。「これは事故ではない、国と東電による犯罪」と、事故直後に友人に書き送りました。その思いは今も変わりません。

事故直後、夕張で小野有五先生の講演を聞き、泊原発の廃炉をめざ



す会を知り加入しました。その後、泊原発廃炉の会・そらちに誘って頂き、ささやかな地域活動をしています。

2012年7月から「泊原発再稼働反対」道庁前金曜日の抗議行動が始まりました。その行動の参加記録の一部を紹介させていただきます。

7月6日「泊原発再稼働反対」道庁前抗議行動に参加して、原発再稼働への抗議行動に呼応して行われたもので、18時過ぎから続々と人が集まり、その数800人に。「泊原発の廃炉をめざす会」の幟を持った人、段ボールに「原発反対」と殴り書きした即製プラカードの若者、おそろいのプラカードの若い女性グループ。金髪にピアス、ギターや太鼓を抱えたカラフルな衣装の若者たち。片手に日の丸、片手に「日本が好きです。原発反対」のプラカードを持った青年。笛や太鼓のリズムに合わせて「原発反対」「命を守れ」「再稼働反対」「泊は廃炉」とシュプレヒコールを繰り返しました。

7月5日に公表された国会の事故調査委員会報告書は、「福島原発事故は『自然災害』ではなく、おそらく『人災』である」「2012年6月においても、依然として事

故は収束しておらず被害も継続している」と報告しています。世論に背を向け再稼働した大飯原発はトラブル続出です。日本の原発の多くが活断層の上にあり、東日本大震災並み以下の地震でも大惨事を引き起こすと、多くの研究者が証言しています。そして、原発は処理不可能な放射性廃棄物を掃き出す「トイレなきマンション」です。

7月13日の「泊原発再稼働反対」道庁前抗議行動に参加しましたが、「集会はまかりならぬ」と、物々しい警戒の中、急きょデモに変更。実行委員会のスタッフが道庁前で説明と誘導に当たっていました。母親に抱かれた赤ちゃんから杖をついたお年寄りまで様々な人が参加していました。

事故直後、電力会社ごとの電力の供給と需要状況が日々報道され、節電が求められました。一般家庭には夏場（冷房）、冬場（暖房）、タ刻（調理）の節電が奨励されました。

ネオンサイン、パチンコ店の照明が落とされ、スーパー、コンビニは照明半減、それでも生活に何も不自由しません。いかに不要な照明が満ち満ちていたか思い知りました。

「原発を稼働させなければ電力

が逼迫して生活がマヒする」と、電力会社と国が訴えていました。当時の道知事が「泊原発を動かさなければ、道民が凍死するわよ」と、のたまうたことは忘れられません。電氣需要が供給を上回り停電することとはなく、まして道民凍死事件など起こらず、11年、12年と乗り切り、普通の生活に原発など不要であることが証明されました。

適切電力生活はいつのまにか消え去りました。今は以前にもまして照明が明々と灯っています。

2022年、政府は脱炭素、ロシアのウクライナ侵略に伴うエネルギー供給不安を理由に、原子力発電について「原則40年、最低60年」としてきた運転期間の延長や、次世代型原子炉への建て替えを進めることを決定しました。これまでの原発依存度低減から180度転換、原発最大限活用に舵を切ったのです。国は危険を顧みず、国民の不安に背を向け、必要もない高コストの原発に固執しています。

繰り返しますが、私たちに原発は必要ない、泊原発は運転停止状態にあり、廃炉しかないと訴えて、私の意見陳述を終わります。